

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	介護老人福祉施設 No.0176400034		
法人名	社会福祉法人 萌寿会		
事業所名	グループホーム 萌寿園		
所在地	留萌市沖見町6丁目18番地6		
自己評価作成日	令和3年9月22日	評価結果市町村受理日	令和3年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設17年を迎えている施設であり長年継続してきたイベントやボランティアを招いてのクラブ活動、家族交流、外部研修など、一切がコロナ禍によって中止となっております。「ふまねっと運動」「わくわく運動教室」「カラオケ」「美容教室」「手作りおやつ」「季節の制作」「畑づくり」などはグループ単独の行事(活動)として継続しております。また、開設当初から週3回の入浴も継続し入居者の方々に喜んで頂いております。また、障がい重度の入居者の通院については、母体である特養や、ご家族の協力が得られております。更に、タブレットを活用してのオンライン面会や日常の様子の写真などを送りご家族の方への安心に繋げています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0176400034-00&amp;Se">mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0176400034-00&amp;Se</a>
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年11月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

社会福祉法人萌寿会が運営するグループホーム萌寿園は、留萌市沖見町の高台に位置した1ユニット平屋建ての事業所となっております。母体法人は特別養護老人施設やデイサービスを運営しており、互いに行事や運営面で連携がされています。事業所では、昨年度から続いているコロナ禍の対応としてビニールカーテン越しの面会やラインを使用して利用者の様子を動画で配信する等の工夫を凝らし、利用者、家族の不安に対応した取り組みを行なっています。管理者、職員は、利用者の個性を尊重した介護に取り組むと共に管理者は利用者職員との信頼関係が築かれる様に、更に、職員が自主性を持って利用者向き合い寄り添う介護実践の指導に努めています。又、個人記録の様式を検討し、記録時間の短縮を図ると共に、利用者の状況や課題、介護計画実施状況が職員間で把握出来る様に変更し介護計画作成に活用されています。地域との交流も積極的に行われており、地域の災害協力隊と協力関係を結んでおり、法人の特別養護老人施設は市の福祉避難所として地域貢献に努めています。利用者が楽しく生き生きと過ごしてもらえ様にと職員の得意な事を活かし美容教室、書道教室、ふまねっとや運動教室等々多くの行事を計画し楽しみを提供しています。回廊式の事業所内は日差しが明るく、利用者は思い思いに和やかに過ごしている様子が伺えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況			実施状況		
<b>I. 理念に基づく運営</b>								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GH独自の理念は玄関ホールに掲げ法人の基本理念である「職員行動指針」に添って作られた理念は日常の支援に活かされている。笑顔を得られるように、生活出来るように心にとめ日々努めています。	グループホーム独自の理念を玄関等目に付く所に掲示し浸透を図っています。コロナ禍以前は法人基本理念「職員行動指針」を朝礼時に唱和して周知に努め介護提供の指針としています。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣小学校の行事参加や娯楽施設へ出かける行事はコロナ禍によって中断となっています。	隣接地域の災害救助協力隊と協力関係を結んでいます。コロナ禍以前は小学校の行事に参加したり、地域の行事に参加したり、娯楽施設に出掛けたりと地域の一員として交流に取り組んでいます。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	医大生の地域医療基礎実習の受け入れなどをしていましたが、コロナによって中断となっています。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、町内会、市介護保険課長(担当者)等を委員とし、2か月毎に開催していた運営推進会議が開催できず書面にて、実施行事などの報告となっています。	昨年度はコロナ対応として書面で開催し運営推進委員(利用者家族、町内役員、行政職員)と全家族に送付していましたが今年度はこれからの開催と成っています。	運営推進会議は書面開催も止むおえない状況ですが事前に意見や疑問点を頂く等の工夫の中で相互開催に取り組む事を希望します。			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険係、地域包括支援センター、ケースワーカーとも連絡を取っています。	行政とは常に連携に努め報告や情報交換を行っており、ケアマネジャー会議や勉強会に参加しています。法人の特別養護老人施設を福祉避難所として協力しています。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は防犯対策で夜間のみ施錠。また、身体拘束等適正化のための指針もあり、拘束をしないケアに取り組んでいるが、転倒転落を回避する目的により、現在使用時間を限定しセンサーマット2台と、体幹抑制帯使用者1名がいます。	職員全員を身体拘束廃止委員とし、委員会を毎月開催し、ケアの確認と検討をしています。研修はオンラインで開催する等の工夫をし、身体拘束の及ぼす弊害を学び理解に努めています。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は「不適切なケア」が見過ごされないよう、無いよう、注意を払い防止に努めています。					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状活用には至っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、重要事項と共に説明し理解・納得して頂いています。料金改定の際は、随時、説明し同意書を頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来園が少なくなった状況下ではあるが、ご家族が忌憚のない意見を述べて頂けるように努めています。	病院受診時など家族と会える機会には家族の意見や疑問点を問いかけています。毎月請求書送付時に利用者の写真や月の行事予定表を同封したり、ラインを使用し動画を配信して様子を伝えています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	人事考課の仕組みはありませんが、管理者は、其々の才能を活かし責任を持って仕上げられるよう個々の職員の向上に努めています。	管理者は毎月開催される事業所の職員会議時や日常業務時を職員の意見や提案を聞く機会としています。年に1度、施設長との面談を開催し意向の把握に努め職場環境整備に反映しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の安心安全が保てるように、環境整備を進め、やる気や意欲向上に繋げることに協力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により法人内外の研修機会がない状況ではあるが、代表者は働きながら学びスキルアップしてくれることを強く求めておりオンライン研修などの参加機会を確保してくれています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、ネットワークづくりやサービスの質が向上することを求めているが、コロナ禍において交流機会の確保が困難となっています。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と関わりのある事業所やケアマネと連携し、面談しご本人の理解・納得を得てから入居の運びとしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面談には、担当者と同行し家族の不安や要望などを確認している。信頼関係を強固にするために面談を2.3回する場合もあります。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている援助を見極めて支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯物干し、調理、畑作業など入居者と一緒に行うことを重視し、支え合う関係を築き「ありがとう」の言葉がけを忘れない様になっています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加の行事や面会が中止となっているが、消耗品の購入を依頼したり、受診時の立会など(家族の能力に応じて)協力を得て共にご本人を支えていく関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍によって家族面会や外出、外泊など制限され馴染みの人とのふれあいが絶たれた状況であるが、かかりつけ医の診察が継続されています。	馴染みの美容室へ出掛けたり以前からのかかりつけ医との関係を継続しています。新聞を読む習慣のある利用者には職員が新聞を提供したりと利用者のこれまでの関わりや習慣を大切に支援に取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール内の往来は自由であるが、自然にホール内のソファでくつろぎ入居者同士が談笑しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて行っています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時は、ご家族や本人からお聞きした情報をもとに希望に添えるよう整えている。生活して行く中で変化があれば、介護員がご本人の気持ちを確認し調整しています。	職員は利用者の生活歴を理解し利用者との会話や様子から意向や思いの把握に努めています。1日の流れの中で特に午後からは利用者と寛ぐ時間を設け利用者に合わせて介護を心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人や家族からお聞きした情報をもとに環境を整えています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の業務の中で話し合っている。ほか、職員間の連絡・伝達事項等記入し、出勤時確認して把握に努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	所長(計画作成者担当者)が介護計画書を作成し、家族に確認して貰っています。6ヶ月毎に見直しを行い検討、評価する事で現状に即した計画を作成しています。	担当職員によるモニタリング、職員間でのカンファレンス、医療機関等の関係者のアドバイスを参考に現状に即した介護計画を作成しています。週単位になった介護記録には介護計画の実施状況や生活状況検討が記入されており介護計画作成に反映しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は1週間単位で書ける様式を使用。日々の様子の他、介護計画を評価する欄を設けている。計画の目標2.3項目に整理した書類を確認しながら、個々の記録の評価欄に○△×を介護員が記して実践への反映をしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対し、可能な限り対応したいと思っています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや小学校との交流など絶やさず支援して行きたいと思っています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	入居者や家族が希望するかかりつけ医への受診は事業所が対応し、家族が同行する場合があります。	利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診は事業所が対応しています。月2回、整形の往診を利用されている方もいます。法人の看護師により利用者に関して健康状態を相談するなど適切な医療が受けられるよう支援し安心に繋げています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	かかりつけ病院の看護師や薬局薬剤師、法人内の看護師に相談できる体制が整っている。その上で健康管理に努めています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関関係者と必要な情報交換、相談を行っている。退院間近にはホームでの生活援助がスムーズに支援できるよう、身体状況確認に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に重度化した場合における対応及び終末期ケアに係る説明をし方針を共有し同意書を頂いています。	重度化した場合における対応及び終末期ケアに係る指針を作成し、事業所が出来る事を明確にし利用者や家族に十分説明をして同意を得ています。利用者の状態の変化によりその都度思いや意向を確認しながら本人にとっての最善を考慮し取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体の特養にAED設置。法人内事業所合同で定期的に行っていた救命救急研修、講習についてもコロナ禍によって中断となっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	GH単独の緊急連絡網に運営推進委員もメンバーに入っている。また、地域に災害時救出協力会があり協力体制が整っているのだが、コロナ禍によって合同訓練は中断されている。管内の法人と災害協定を締結しています。	夜間想定での避難誘導訓練、自然災害想定での避難訓練を実施しています。緊急連絡網には運営推進委員会の方の登録や管内の特養との相互における災害協力協定を結びあらゆる災害に対応し、利用者や家族の安心・安全に努めています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライドに配慮し言葉かけなどは留意している。また、個人の情報となる書類等は見えない様にしています。	利用者の人格を尊重し、プライバシーを損ねる事のないように利用者の思いに寄り添うケアを心掛けています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で、自己決定できるよう選択肢のある声掛けを心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を優先するのではなく、入居者個々のペースを大切に、出来る限り希望に添えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の中で、ご本人の着たい服や似合う服装をして頂いている。月1回の美容教室においては、パックやマッサージを行っています。散髪についても、ご本人の好みの髪型に整えて貰っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者と同じテーブルを囲み同じ食事を摂っています。また、畑で収穫したジャガイモや枝豆などを活用し利用者と手作りクッキングも実施しています。	今年度から食材は食品業者から栄養バランスの取れたおかずが届き、事業所ではご飯、汁物を調理して提供しています。畑ではジャガイモや大根などの収穫があり豚汁などを作ったり、手作りおやつなど楽しく食事ができるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	R3.6月より調理済み食材が届く給食業者と契約を結び三食の栄養バランスは保たれています。また、食事や水分の摂取量は日々記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者個々の力に応じた支援を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し声がけ誘導などでも排泄の自立に向けた支援をしています。	利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりの仕草や表情を見極めトイレでの自立した排泄の支援を行っています。日中・夜間、身体状況に合わせ衛生用品、ポータブルトイレなどの対応を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談したりテレビ体操を日課にしているなど、入居者個々の力に応じて便秘の予防と対応を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調に配慮し週3回の入浴を実施。二人介助にも対応し一人一人がゆったりと入浴を楽しめるよう午前と午後に分けて行っています。	入浴は週3回を基本に利用者の希望や体調を考慮し、2人介助、シャワー浴などで清潔保持に努めています。入浴剤を使用するなど気持ち良く入浴出来るよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状況や体調に合わせて、休んで頂けるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職員が何時でも用法・用量を確認できるよう薬の説明書の保管場所を決めている。また、症状の変化など記録に残し情報共有に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の役割としては特定せず、ご本人が得意とし自信を持って行える事を支援しています。また、スタッフの得意なことをレクや行事として組み込んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナによってこれまで行われていた家族との外出も控えて頂いています。現在のところ外出は、受診のみとなっています。	コロナウイルスの影響で外出は自粛していますが、天気の良い日には敷地内の散歩や病院受診時の外出で少しでも外気に触れ気分転換出来るよう支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望や能力に応じて、ご家族と相談し支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人や家族が希望される場合には、何時でも電話やライン電話が使用できるよう支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分であるホールに自然と皆が集まりテレビを観たり談笑されています。玄関や洗面所に植物を置きました、壁に季節を感じていただけるものを飾るなど心地良く過ごして頂けるよう工夫しています。	共用空間には季節感のある装飾、職員と一緒に製作した作品が掲示されています。美容教室が開催され手・足のマッサージや顔パックなど美意識を刺激し活力が生まれています。温湿度に配慮し安心な環境づくりに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部分であるホール以外にもソファを置きそれぞれが思い思いの場所で過ごす事が出来るように工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、カーテン、ベッド、冷蔵庫、ミニタンス、ストーブが備え付けています。利用者の使い慣れた寝具や家具やテレビを持ち込んで頂いている。今までの生活習慣が継続できるよう努めています。	居室にはクローバーやチェストなどの備え付け、加湿器も設置され居心地よく過ごせるようになっています。利用者の使い慣れた物や大切なものが持ち込まれ自分らしく生活出来るようになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	対面式の台所が建物の中心にあり回廊式になっている。廊下にもソファを置きました、導線には手摺を設置。広いトイレが2か所あります。		